

平成 27 年度第 2 回古賀市補助金審査委員会 議事録（要点筆記）

【会議の名称】 第 2 回古賀市補助金審査委員会

【日時・場所】 平成 27 年 6 月 15 日(月) 9 時 00 分～12 時 00 分
市役所第 1 庁舎第 3 委員会室

【主な議題】

1. 開会
2. 会議の公開について
3. 委員長あいさつ
4. 実績報告及び評価
 - (1) 実績報告及び評価
 - ① 「いざという時役立つ、ガールスカウトの知恵袋」～災害時に役立つ技術を知ろう～ ガールスカウト福岡県連盟第31団
 - ② 官兵衛 KK（古賀市薦野）版「千里眼 薦野増時」宣伝事業
薦野の歴史をつなぐ会
 - ③ ボランティアによる飼い主のいない猫の捕獲避妊去勢手術・啓発活動
わんにゃんフレンズ古賀
 - ④ 文庫の成人式 星の子文庫
 - ⑤ 「白くまくんをすくえ！すごろく」バージョンアップ版の作成
特定非営利活動法人エコけん
 - ⑥ るんるん♪ごみ拾い 特定非営利活動法人エコけん
 - ⑦ プレーパークの定期開催から常設に向けたプレーワーカーの育成事業
特定非営利活動法人古賀新宮子ども劇場
 - (2) 評価結果取りまとめ、総括
5. その他
6. 閉会

【傍聴者数】 非公開

【出席委員等の氏名】

委員：宗像優委員長、今村晃章副委員長、三上伸充委員、山崎あづさ委員
事務局：財政課長 星野孝一（途中退席）、財政課財政係長 割石直人、
財政係 田中智実

【庶務担当部署名】 総務部 財政課 財政係

【委員に配布した資料の名称】

前回同様（配布済み）

【会議の内容】

○会議の公開について

(事務局) 合議制の審査となるので、古賀市情報公開条例第 7 条第 4 号の公にすることにより、率直な意見の交換もしくは意思決定の中立性が不当に損なわれる恐れがあるものと判断しましたことにより、非公開。

○議事

本日は平成 26 年度採択の 15 事業のうち評価済みの 8 事業を除く 7 事業の評価を行う。

① 「いざという時役立つ、ガールスカウトの知恵袋」～災害時に役立つ技術を知ろう～ ガールスカウト福岡県連盟第 31 団

補助内示額：110 千円 補助実績額：91 千円

(委員) 報告会を聞く限りでは、すごくちゃんとやっている、結果を出しているという感じを受けた。成果物も見たがいいものになっていた。今後も生かしていきたいという話をされており、補助事業としては、非常に適切だったのではないかと思う。団体としては課題は残ったという感想も書いてあるが、団体の運営上の課題について、ちゃんと意識を持っているという点では良いと思う。スカウト入団には至っていないということだが、急に至る話でないであろうし、全体的に見てもよかったのではないかなという印象を受けた。

(委員) ガールスカウトのこの事業は、平成 26 年のみということだが、また申請しようという意向はないか。総務課でも、防災などに積極的に関わってほしいという意見があるので、これが単年の事業で終わるのはちょっともったいない気がする。

(委員) 印刷 3000 枚で、3 万円程度費用がかかっているが、その印刷物の将来的な利用法は、どのように考えているのか。

② 官兵衛 KK (古賀市薦野) 版「千里眼 薦野増時」宣伝事業

薦野の歴史をつなぐ会

補助内示額：246 千円 補助実績額：174 千円

(委員) 報告内容を見るとしっかり堅実にされているという部分とか、内示額いっぱいまで使おうではなくちゃんと自立という方向に備えて、単純に使い方がまずかったではなく、努力した結果、返還分が出てい部分など、当初想定よりも評価は結構高い。

(委員) 審査時において、一部の人々への偏りが無いようにとか、現段階で会員内にとどまっているような印象を受けるとか、対象はもともと歴史に興味ある高齢者に限られてしまうのではないのかななどの懸念されていたものの、実際、その点は大丈夫だったようだ。域外の人来ているということなので、自分たちの楽しみだけというふうな視点ばかりではなかった。当初の懸念は、全部ではなくても解消されている。

(委員) ほたるの関係、駐車場の問題で地域内だけと記載されているが、ほたる見学とい

うのは近隣市町でも実施してあるので、調査研究して、古賀市民全体が参加できるかたちをお願いしたい。

③ ボランティアによる飼い主のいない猫の捕獲避妊去勢手術・啓発活動

わんにゃんフレンズ古賀

補助内示額：321千円 補助実績額：321千円

(委員) 評価書の中に関係課との連携が進んでいると書かれてあるが、具体的にどのような連携なのか、状況なのか。例えば、定期的にミーティングをやっているとか、情報交換しているとか、あるいは現場に出ているということはないのか。

(委員) 今回の補助金を使っただけの活動で1番成果があったと思うのは、環境課の意識が変わったこと。申請時の担当課の評価を今見直していくと、地域的活動に対する理解が全くなかったとあるが、今回の評価を見ると、実情を把握して、活動意義を理解して、前向きに取り組んでいく必要があることを環境課が認識をしたということが1つの大きな成果になると思う。

(委員) 本来なら行政が率先してやるべき事業だと考えているので、本当にこれでよかったのかと思う。この事業が終わっても、環境課も補助金だけではない何かを考えていくべきだと思う。

(委員) どちらのやるべき話かどうかは別にして、課題が目の前にある以上、お互いのできることをちゃんと生かしながらやっていくということが求められていくと思う。行政の意識が変わったということであれば、具体的にどんな役割を果たしていくのが重要。市全域の実態を把握するという話については、その現場で活動する団体よりも、市のほうが得意だったりする可能性もあると思うし、例えば、単なるその啓発、一人一人の意識を変えていくってという話で追いつかないという結果が出ているのであれば、政策にする必要性も出てくると思う。環境課がどういうふうな連携をしてるのかということところが少し見えてくると、この先一緒にやっていこうというところの信憑性が出てくるのではないかと思う。

④ 文庫の成人式 星の子文庫

補助内示額：190千円 補助実績額：190千円

(委員) 自分たちだけでやるだけではなく、地域の人達も入れてという取り組みは非常に評価できるところだが、星の子文庫の本体の出し物は、文庫の成人式ということで、文庫を20年間頑張りましたというところをしっかりクリスマスと絡めてお祝いしていく構成になっていたものの、地域のご年配の方々の集まりである合唱が全然そうではなく、雰囲気感を全く感じてなかった。連携というところでは難しいところではあるのかもしれないが、いまひとつイベントの雰囲気とあってなかったというところで違和感があった。

(委員) 収支報告書について、講師料の単価に誤りがあったり、数や単価の欄が省略されてあったりするため、もう少し丁寧に書いて欲しい。また、科目ごとの合計を記載にした

うえで、内訳を記載するようにしてあげればいいと思う。

(委員) 実績報告書に参加者数が記載してあるが、補助金の事業計画書での目標が達成されていないにもかかわらず、成果報告書では、計画のとおり効果を上げることができたという評価になっている。このあたりはどう評価するべきなのかという点が少し気になる。当初企画書の数値目標に対して、実際にできた成果にギャップがあった場合には、会場が変更になったためとか、その他どういう理由があったのかがあればもう少し丁寧に書いていただきたい。

(委員) 成果報告書の総合的な評価については、事業に対する評価がほとんど記載されていないため、団体の中で事業に対する振り返りがきちんとなされたのかが疑問が残る。自分たちなりの反省みたいなものを考えて書いていただきたいかった。

⑤ 「白くまくんをすくえ！すごろく」バージョンアップ版の作成

特定非営利活動法人エコけん

補助内示額：190 千円 補助実績額：190 千円

(委員) 配るより授業で使うほうがいいという話になったということだが、結果的に 100 個作ったすごろくの所在はどうなっているのか。

(委員) 収支報告書を見ると、消耗品の支出を積み重ねてすごろくができ上がったのだろうが、全体的には、備品的なものを作るための事業という感じがする。

(委員) 申請の際の計画に、すごろくを作った後で古賀市内のすべての小中学校に案内したり、アンケートや報告書を作成するとあったが、小中学校への具体的なアプローチや事業についての説明が資料だけではわかりにくいため、作っただけで終わりましたというような印象を受けた。作ったものをどういうふうを活用して、どういう成果があったというところが見えない。

(委員) 団体としては、結構メリットがあっただろうと思うが、古賀市としてのメリットは少ないと言わざるを得ない。地元の小中学校でやっているとあるが、そんなにたくさんやっているわけでもない。今後は、しっかり古賀市内で普及啓発を図っていただきたい。

⑥ るんるん♪ごみ拾い 特定非営利活動法人エコけん

補助内示額：52 千円 補助実績額：52 千円

(委員) 成果が出てるかどうかという話に関しては、アンケートの記入者も少なく、しかもその後のボランティア活動につながってるかも分からない点でいくと、成果も出てないという話にならざるを得ない。今後は、アンケート記入に重点をおき意識の変化を調べるということだが、アンケートのとり方をどう改善をするのかというところは、もうちょっと踏み込んだ記入があればよかったのではないかな。

(委員) 報告書についてももう少し詳細なものが欲しい。額が小さくてもそれに見合う活動とか、成果とかというのをしっかり出してくれるならばいいと思うが、そうっていない

と感じた。来た方全員にゴミを拾ってもらおうというのは難しい中で90名ぐらいが参加したというのをどう見るかという評価と、具体的にアンケートはどのぐらい実施できて、回収できたのか、数字をしっかりとあげて、それをどう見るかという評価をまとめていただきたい。

(委員) ごみ拾いボランティアには文句のつけようがないが、補助金を使ってイベントをするということであれば、イベントで何を目標にするかや、何が達成できたのかというところをもう一度考えて計画なり、報告なりをしていただきたい。ただのごみ拾いイベントとして終わりましたという感じになっている印象を受ける。チラシにしても、チラシを作成して来てもらうだけではなく、それ自体に啓蒙の目的を持たせたり、来ていただいた方のアンケートなり、反応なりをもう少し丁寧にきちんと集めていただきたい。

⑦ プレーパークの定期開催から常設に向けたプレーワーカーの育成事業

特定非営利活動法人古賀新宮子ども劇場

補助内示額：500千円 補助実績額：469千円

(委員) 報告書の書式でいつ何をやってどれぐらい参加したか、時系列的な報告を出してもらうとよい。最初の申請書を見なくても具体的に行った内容を記載できるような書式なり、そういう指導をして欲しい。

(委員) 福岡市でやってあるように行政と一緒に共同事業でプレーワーカーの育成をすることはできないか。プレーパーク自体の専門性は民間の団体がもっているのだから、それを活用しながらうまくやるのは有りえると思うのだが、団体の認識がどのような感じなのか。今後の継続にあたっては、育成の努力をする必要はあるだろうが、1団体のみで無理であるという話であれば、他の地域の団体と組むということも検討してはどうか。

(委員) 実施する側、参加する側も無料に慣れてきているところがあるのではないかな。無料でないとも来ないみたいなのができ上がっている可能性があり、人材を育成するためにはそれでも人に来てもらわないと困るということもあり、無料にしているということはないかな。有料にしても人がちゃんと来るようにするための質を担保することを目指していかないといけないのではないかな。せめて保険料ぐらいは取ってもらい、このプレーワーク施設は有料だけれども、良い施設だという認識が広がっていけばいいと思う。方法論としてお金を取る、取らないはあるとしても、自立していこうという姿勢を持っているかは確認したい。

総括

(委員) 今後の方向性について、見直しの上継続という評価の仕方がいまひとつ見えなかった。見直しの程度について、多少の微調整があつての見直しと判断するのか、大幅に見直しが必要であると判断するのかの差が出しにくかった。

(委員) 今後の方向性に関して、極端に評価が低いところがあるので、団体へはコメント

の内容をしっかりと伝えてほしい。

(委員) 報告書の書式について、実績報告書、収支報告書、成果報告書と3種類あるが、具体的にいつどこで何をやったのかを団体にしっかりと書いてもらうために、報告書を記入する際の留意事項を設けたり、記入例を例示したりなど事務局で検討して欲しい。

(委員) 報告書関係について、事前に記載ミスなどがないかの事前のチェックをお願いしたい。また、項目ごとにまとめつつ、細かい数字は別途添付するなどのやり方も検討して欲しい。

(委員) 審査から評価までの一連の流れの中で、基準や評点を含めた統一性や整合性を今一度検討する必要がある。

(委員) 報告会への参加のあり方について、必ず参加しないといけないものなのかそうでないのかをはっきりする必要がある。

(事務局) 報告会については、審査委員会とは別のところで動くものであり、前は単年度で終わる3団体に報告会に参加してもらった。3年間で採択を受けている団体については、3年間の中で1回は参加してもらうようにしていきたいと考えている。

(委員) 団体からのイベントへの招待があった場合の委員の対応について、今回同様、財政課をとおして案内を出すやり方でよい。

(委員) 委員に招待があった場合に参加する、しないについては、委員会としては特に統一しなくてもよいのではないかと考える。委員としては書類審査で対応していくのが流れであるので、公平性問題はないものとする。

その他

(委員) 今回で審査から評価まで一連のことを経験した。その上で、書式ややり方などにおいて、改善が必要な部分が出てきた。公募型補助金の仕組み全体を見直して、リニューアルするタイミングがあったほうがよいかも知れない。

(事務局) 団体の書類に対する意識について、補助金をもらう方に力点が置かれ、評価に対する部分については意識が低いように感じる。今回の評価を踏まえて団体の意識が変わっていかばよいと思う。今後も事業の実施は続き、次の審査に影響があるということで次に繋がればよい。

以上